

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2008年7月 発行 / 第34号

社会福祉法人北摂杉の子会 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 萩の杜家族会 ジョブサイトひむろ家族会
ジョブサイトよど家族会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



就労先との正式な契約（パート）が決まり意欲的に働くジョブサイトひむろ利用者、三宅寛幸さん

『自閉症・発達障害者のスキル & モチベーションを高める OJT/Off-JT および管理方法の開発』のご報告

法人では 18 年度につづき、平成 19 年度においても厚生労働省助成プロジェクトとして次の 2 件のテーマについて進めてまいりました。

プロジェクト 1 『自閉症・発達障害者のスキル & モチベーションを高める
OJT/Off-JT および管理方法の開発』
(事業額 1,050 万円)

プロジェクト 2 『自閉症・発達障害者の特性を活かした高付加価値職域・
事業の開発に関する研究』
(事業額 770 万円)

今回はこのうち、プロジェクト 1 について報告いたします。事業全体概要を法人客員研究員としてプロジェクトに全面的に参画いただいた関原深氏にお願いし、現場における具体的な取り組みについて、実施現場となったジョブサイトよど主任の田端よりお伝えいたします。



プロジェクトを振り返って

社会福祉法人北摂杉の子会

客員研究員 ^{せき} 関 ^{はら} 原 ^{ふかし} 深

1. はじめに

社会福祉法人北摂杉の子会では、平成 18 年度に厚生労働省障害保健福祉推進事業として、「実業を通じた自立型福祉施設の就労支援力強化に関する研究」を受託しました。この研究では、自閉症・発達障害の方々への就労支援力強化と必要な支援について、ランチ弁当作りの実践を通じて、成果をまとめました。この研究を経て得られた知見は多くあったのですが、特に重要なのは下記 2 点だったと思われまます。

① “役割期待” がスキル & モチベーションを高めるということ

② 自閉症・発達障害の方の能力は、特に「丁寧」なことが付加価値に繋がる職務で発揮されること

これを受けて、自閉症・発達障害の方の能力が強みとなり、かつ付加価値が高い業務を、北摂杉の子会の自主事業として成立させることを最終目的とし、その過程において必要となってくる「スキル」「モチベーション」の向上をめざして、平成 19 年度は「自閉症・発達障害者のスキル & モチベーションを高める OJT/Off-JT および管理方法の開発」というテーマで厚生労働省より受託しました。結果として社会福祉法人の自主事業立上のモデルづくりにもなることを目論見ました。こ

の事業化の流れを通して本プロジェクトを紹介したいと思ひます。

2. プロジェクトの概要

〈基本的な考え方……スキル・モチベーションを高めるために〉

ひとつの事業を軌道にのせることにより、スピード・品質など、市場から求められる環境をつくり、必然的に引き起こる役割期待からモチベーションをあげ、モチベーションをあげるによりスキルを向上させる、という好循環をめざしました。

〈商品の設定〉

自閉症・発達障害者が取り組んだ場合に、より成果のあがりやすい商品を対象とすることでモチベーション向上を期待できると仮定し、「丁寧さ」が付加価値に繋がるもの、という要件を中心に検討しました。平成 18 年度の研究にて、丁寧さが活かせる高付加価値業務の抽出を行ったので、その資料を活用して、あらゆる商品・サービス取組の可能性について議論しました。

結果、食の安全が叫ばれ、衛生管理の徹底が今後のカギを握る中、自閉症・発達障害の方の徹底した衛生

管理能力は今後の競争優位になること、また昨年度お弁当作りをしていた経験も活かせることから、食品を中心に検討を行った結果、最終「一口サイズのコロケ」を商品としました。

〈商品開発〉

商品開発の中でも重要なのは、「商品のコンセプトづくり」および「生産品質の安定化」でした。いくら能力を活かしても売れない商品を作っているのは意味がなく、モチベーション向上にもつながらないため、家族会の皆様にもご協力いただきながら、レシピの改良と生産品質の安定化を図りました。

PJメンバーの田端主任のコンセプトメイクにより「とにかくおしゃれで、おいしくて、お酒に合う」ものを作ろうと努力を重ね、最終的には、梅しそ、タマゴ、クリーム、肉じゃが、枝豆、チーズおかかの6種類のコロケを商品化することにしました。

一口サイズのコロケを作るには、均質に具材が混ざったタネを、20g ± 1gの範疇でまるめるといった丁寧な作業が必要になります。自閉症・発達障害の方にとっては説明しただけでは「計量」や「成形」のイメージがつかみづらく、週のうち作業日でない日にはOff-JTとして粘土で計量・成形の訓練を行うことにより計量および成形のイメージづけを行いました。また作業日においては順に注文量が増えていくことにより作業にも慣れてスピード・成形精度ともに向上していきました。注文の多い日は500個を超す作業になるのですが、OJTとOff-JTを組み合わせで行ったことによりスキル面での向上が得られ、厨房では手慣れた手つきでどんどんきれいなコロケが仕上がるようになりました。



厨房内の様子

電子秤



丁寧に丸めてトレーに並べていく

半製品(枝豆コロケ)

〈事業化準備〉

コロケの事業化を進めるに当たっては、厚生労働省「食品等事業者が実施すべき管理運営に関する指針」に準拠させて、保健所と相談しながら進め、最終的に「惣菜業」の営業許可を取得しました。

また、作業に集中できる環境によりスキルを向上させる目的から、働きやすい厨房作りとして、昨年度同様、構造化したツール等を作成し環境支援に努めました。



〈環境支援一例〉

左) 各種ボール・トレイに色テープを貼り付け、片づけを間違わないように工夫

右) 収納後の写真を添付し、最終確認できるように工夫

3. 成果

〈テストマーケティング〉

12月に営業許可が取れる目途がついた段階から、テストマーケティングに協力いただける店舗の開拓をしました。丁度、商品コンセプトが店に合う、ということで、居酒屋とキッチンバーの2店で採択いただくことになりました。テストマーケティングでは、荷姿(含温度管理)、決済、品質、顧客評価等の確認を実施しました。

顧客評価も上々で、例えばキッチンバーでは、販売開始時200個/週の仕入れでしたが、その3週間後には300個/週の仕入れとなりました。特に女性客には梅しそコロケが、男性客には枝豆コロケが人気のようです。GLOBEのマスター小林さんからも「おいしいと言ってくれるお客さんが多い」と本当に“普通”に人気商品になりました。

本プロジェクトでは、モチベーション向上をねらい、客先での声を積極的に伝えるようにしました。結果、自分たちの作業が最終顧客の声につながっていることを知って、さらなる励みとなり、より正確に、より早く、より見栄えよく、衛生管理にも余念なくと、自立的にモチベーション・スキルを向上させていくという好循環が生まれました。



Kitchen Bar “GLOBE”
(大阪：北新地) での様子

〈賃料換算〉

11月から2月までの生産・販売状況より、概算利益（設備の償却を使用日のみ負担するものとして設定）を算出し、これを実際に製造に携わった方の投入時間で除した「概算賃料」を算出しました。その結果、時給に換算すると約390円、設備償却を考慮しない場合では約460円まで向上しました。これは、家族会・職員の内部販売においての単価なので、直接小売まで実施した場合はさらなる収益性向上につながる余地を残していると思います。

〈モチベーションの変化〉

昨年に続き、本年度も厨房では、利用者の方々それぞれが能力を発揮し、厨房に入って作業をしたいという高いモチベーションを維持していただきました。今年度は現場での直接指導はもちろん、指導者の講習会受講や、面談、調理場外における実技練習等といったOff-JTの要素も取り入れて進めました。プロジェクトとして計画的に取り組んだこともありますが、ご家族の方々のご協力をはじめとする、多くの要素も重なって、結果、好循環が生まれたものと思われまます。自分で食べておいしいし、人からおいしいと言われる→

れしい→がんばる、といった評価のフィードバックが早いコロッケという商材が奏功したのかもしれませんが。

4. 今後の取組（事業展開）

施設の制約により、惣菜行としての事業展開を中心に考えるのが現実的です。であるならば、収益性を高めていくためには、独自店舗による販売を実施していく必要があります。地域資源を活用しながら、地域と共生していけるような店舗づくりを意識したいと考えています。

また、独自店舗による販売をするにあたっては、商品ブランドづくりが不可欠です。これもテント販売等でのテストマーケティングによる検証を重ねて進めていきたいと思っています。

最後になりましたが、このような機会を頂戴し、誠にありがとうございました。厨房に入っていたご利用者の方、御家族・家族会の皆様、職員の皆様をはじめ、関係各位の多大なるご協力に、この場を借りて御礼申し上げます。この取組が好循環の契機となり、ひいてはインクルージョン社会創造へと繋がっていけばこの上ない幸せです。重ね重ねありがとうございました。



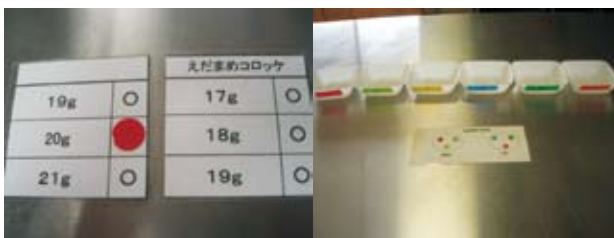
支援者からみた定性的変化（好循環）



ジョブサイトよど

主任 田 端 たまみ

コロッケ作りを進めていくにつれ、利用者の方々が大変積極的に仕事に取り組まれるようになりました。何故、そのように好転していったのか、もともとコロッケ作りは自閉症・発達障害の方には向いているのではないかと思ひ、始めたわけですが、それ以外の角度からも考えてみたいと思います。



まず現場で作業を教えるにあたって例をあげると、コロッケの計量（1個20g）においては、19g、20g、21gは○ということを具体的に表示して教える、また、枝豆を均等にコロッケの表面に6個貼り付けるにもど

のように貼ったら良いのかを色別に図解して同じ色の容器を用意し、そこからそれぞれ1個ずつ取るというやり方で行いました。作業をするにあたって、できるだけ声掛けを行わずに一人で行えるように具体的に表示し視覚化して自立して行っていくようにしました。またコロッケ作りの工程をできるだけ始めから終わりまで知ることで自立度が高まりました。

最初に入ったときは何ができるのかアセスメントから始まり、できることの中でも特にそれぞれの利用者が得意とする工程から、まずは入っていただきました。仕事をしながら、利用者の方はしっかりいろいろなことを目で見て覚えていくのです。特にスタッフが行っているようなこともしっかり目で盗んでいるわけです。それがまた、新たな仕事につながっていったりするのです。はじめは一工程しか知らなくても、厨房の中で他の人々がいろいろな工程を行っていることで、自分の仕事以外のことも覚えていくのです。それによ

りさらにできることが増え、はじめは利用者同士の流れ作業はできずにスタッフと行っていたことも、利用者同士で行えるようになってきました。一人でできることが増えてくると利用者は仕事自体を楽しんで行うようになりました。「厨房に入ることは自分の仕事」という意識の高まりができ、コロッケ作業を行うこと自体がモチベーションになってからは、衛生管理などもとてもしやすくなりました。



粘土にて計量の練習

というのも「〇〇をしないといけないと厨房には入れません。〇〇をすると厨房で仕事ができます。」と伝えると色々なことができるようになりました。例を挙げますと、女性利用者Aさんは頭髪を自分以外の人に触られるのが感覚上とても嫌な方でした。洗髪が不十分であったり、髪の毛が伸びていても切るのがいやであったりという方でしたが、それも厨房に入るために、ある時、意を決して家でご自分で泣きながら髪の毛を一人で切られたようです。それ以降その方は、髪の毛を厨房用の帽子から出ないくらいの長さにいつもまめに切られています。また、月一回の検便の提出をなかなかされない方々に思い切って「検便を持ってこない人は厨房に入ることはできません。」と行って入のを控えていただいたところ、検便を持ってこられるようになりました。

また、家族会のご協力を得ていることは非常に利用者の方のモチベーションをあげる結果に結びつきました。利用者の方が持って帰るコロッケがおうちの食卓に上ることで、「おいしい！頑張ったね！」など直接食べた家族から誉めてもらえるという早いフィードバックがあること、そして食べればなくなり終わる。なくなってまた来週作って持って帰るからという1つの商品の流れが見えたことは大きかったのではないのでしょうか。

これまでの受注仕事にはあまりモチベーションが上がらずに寝て過ごされることもあった利用者の方も今では、見学者の方が来られると率先して「うち、コロッケ作っているんです！」と4階の説明をされています。

コロッケを作るようになって、家で食洗器をまめにかけるようになり食洗器の洗剤がなくなると訴えられるようになった方もいます。また、コロッケの日は、家の付け合せの野菜をこれとこれにしてくださいとお母さんをお願いして出かけられる方もいます。

ひとつだけの何かが好循環をもたらしたわけではなく、コロッケ作りを重ねる中からジョブサイトよどの厨房の仕事として、皆さんが自信を持ってできるという気持ちが高まってきたからではないかと思います。

先日、私が厨房の外からコロッケ作りを見ていての一コマですが、スツールに座り一時休憩していた一人の利用者さんとたまたま目が合ったその瞬間にその方は、あごにしていたマスクをサッと口に戻したのには驚きました。私と目が合っご自分がマスクをはずしていたことがいけないと感じるようになったことはたいしたものだと思います。(そんなに私がこわいから？…) ちょっとした、感動の一瞬でした。

最後になりましたが、よど3年目にしてようやく、よどの調理作業として進むべき方向が見えてきたように思います。よどの家族会を始め、萩の杜、ひむろの家族会の方々にもご協力頂いたことを深く感謝いたします。ありがとうございました。まだまだ、これからですが、このプロジェクトを通しての知見を活かし、今後の法人のオリジナル商品として確立させていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



本プロジェクトの報告書が刷り上がっています。詳しくはお知らせのページ(14ページ)をご覧ください。

1 はじめに

今回は、常務理事・松上より、法人ホームページの「松上利男の一言」で掲載いたしました高井田苑での新聞等での報道記事の検証として「問題行動を悪化させる構図」と「問題解決に向けた構図」の二点を、法人のスーパーバイザーでもある中山清司氏のレポートにも触れながら紹介いたしました。

今回は、平成14年度から17年度まで私が担当させていただきました入所施設、萩の杜における強度行動障害の方を対象にした日中活動グループの一事例をあげ、さらに具体的に「問題行動」の捉え方、アプローチ、実際の取り組みについてご紹介いたします。

2 グループ紹介と事例プロフィール

入所施設萩の杜は「地域に生きる」の理念のもと、支援方針に「職住分離」をあげ、夜間や休日の場（入所）と日中活動の場（作業場）を分離して支援しています。しかし、街中にある作業場までの移動が非常に困難な方、外的な刺激に非常に敏感な方、医療対応の必要な方を対象に、萩の杜敷地内にも日中活動の場（作業所）を設定し、現在も9名（当時10名）の利用者が所属し、活動されています。

今回は、この敷地内の作業場所所属のAさんの事例を紹介し、行動障害に対する分析や取り組みについて紹介いたします。

Aさん、現在37歳、男性、重度知的障害を伴う自閉症。AD/HD（注意欠陥多動性障害、以下AD/HDという）を合併。多動であり、環境の変化に非常に敏感で、注意の移り変わりが激しく、激しい自傷と他傷に陥る衝動性を伴っていました。自閉症にAD/HDの合併ということで、刺激や変化に対しての反応が複雑に絡み合い、さらにストレスを助長しているケースです。コミュニケーションスキルとしては、言葉はなく、職員の腕を引っ張る（クレーン）しぐさで、伝えたいことを訴えられます。Aさんは萩の杜の生活エリアで生活支援（夜間支援）スタッフの支援をうけながら生活しつつ、日中は同じ建物の作業エリアに出られ、私を含む日中活動の支援スタッフと過ごしているという状況でした。

本事例に対し、以下のような支援を実施しました。

- ①自傷・他傷等の課題の原因を探り、整理・対策にあたる（行動分析）
- ②自閉症の障害特性に応じたアプローチの実施（構造化）
- ③AD/HDとしての障害特性に応じたアプローチの実施（パラレルティーチング）

以下、それぞれの取り組みについて紹介します。

3 具体的な支援

①自傷・他傷の原因を探り、整理・対策にあたる（行動分析）

本事例の激しい自傷や他傷の原因を探るべく、「自傷」「他傷」といった行動の前後に起こった客観的な事象を、以下の項目に整理して記述しました。

先行事項 → 行動（自傷・他傷） → 結果

また、自傷や他傷など特徴的な行動について、生活発作記録票にチェックし、行動の起こりやすい時間や曜日を把握しました。

問題行動の前後に起こった事象と、記録票に記載された問題行動の起こりやすい時間や曜日とを照らし合わせて検証することで、いくつかの原因と思われる仮説を立てることが出来ました。

仮説については、以下の通りです。

- (1) 排便の前後に自傷が多い。
服薬の副作用もあり便秘気味であること。しかし、急に下痢に変わることがあり、その際の腹痛を自傷の痛みに変えているように推測される。
⇒（生理的な痛みが原因）（知覚や感覚刺激に対する特異性がある）
- (2) 人の変化に反応し、他傷が多い。
初対面の職員や実習生、見学者等に過剰に反応し、後追いをしたあげく、他傷につながることもある。
⇒（人刺激に反応）（変化に敏感）
- (3) 朝の散歩の前後に自傷・他傷が多い。
散歩の集合時、人混みの中、待ちきれなくて周囲の利用者やスタッフへの他傷につながる。また夏の暑い時期は、汗をかき不快感からか他傷につながる。
⇒（待ち切れない→時間軸の欠如）（人混みは苦手→人刺激敏感）（暑さに弱い）
- (4) 活動中に集中が切れて、徘徊が始まり、それをきっかけに各所でトラブルにつながる。
⇒（過活動性に対しエネルギーの発散不足）
以上が原因として推測されました。これらの原因として考えられる仮説に対してひとつずつ対策を講じ、計画を立て（PLAN）→実行し（DO）→再評価・検証する（SEE）を繰り返しました。内容と結果は以下の通りです。

- (1) 排便や便意に伴う腹痛に対して
 - ・朝の散歩に加えて、昼休みにも散歩を設定し、一日の運動量を増やすことで整腸を促しました。
 - ・作業の課題の終了ごとにお茶を提供し、水分を多めに摂ってもらいました。（水分摂取による整腸）
 - ・ご家族や生活支援スタッフ、また医療関係者と連携し、排便のリズムをつかみ、下剤の使用や薬の量の微調整を図りました。
 以上の取り組みにより、平成14年度のデータでは、Aさんは月間平均7～8回程度しか排便がなかったのに対し、平成15年度には、月間13～14回の排便数となり、それに伴い自傷も半分以下に減りました。ただし、突発的な下痢などの場合の自傷については、現在も残っており、継続した課題となりました。
- (2) 人の変化への反応に対して
 - ・大学などからの実習生が入る場合には、Aさんの所属グループから可能な限りはずすこととしました。
 - ・見学者についてもAさんの動きにかち合わないよ

う見学時間をずらすなどの配慮をお願いしました。

・施設内での家族会などの会合の開催についても時間等の配慮をお願いしました。

以上により、人の変化が原因と思われる他傷は見違えるように減りました。

(3) 朝の散歩前後の自傷・他傷に対して

・利用者を生活エリア玄関より送りだす生活支援スタッフとの間で、散歩の出発時間を確認しあい、待ち時間なくAさんが集合したら、すぐに散歩に出発できるように設定しました。

・散歩の集合場所を玄関付近から先にずらし、玄関から出てすぐに入混みの刺激にならないようにし、他のメンバーとの距離をとるように設定しました。
・それでもトラブルが起きそうになれば、全員が揃うのを待たずに散歩に出発するように心掛けました。

・夏期の散歩については、距離を短く設定し、風通しのいい場所で休憩しつつ、水分補給を実施しました。散歩終了後すぐに着替えをしてもらい不快感のないように配慮しました。

上記取り組みにより、トラブルは大幅に減少し（ほとんど皆無となった）以前と比較すると、かなり安定して散歩が出来るようになりました。

(4) 過活動性へのエネルギーの発散不足に対して

・昼休みにも散歩などの運動プログラム入れ、運動量を増やしました。

・活動のひとつとして、衣類等の洗濯物の施設内での運搬作業を取り入れ、動的なプログラムを追加しました。

・AD/HDの多動性に対する環境調整を図りました(以下に記述)。

上記取り組みにより、作業中に席を離れることが減少し、安定度が増しました。

行動の前後関係を客観的に記述することにより、様々な問題行動を引き起こす原因ではないかと思われる仮説が浮かび上がり、それをひとつずつ検証し、計画を立て(PLAN)→実行し(DO)→再評価・再検証する(SEE)の実施。このプロセスを何度も何度も繰り返し取り組むことで、各所、各時間に起こっていた問題行動の頻度が徐々に減少し、結果として、行動改善に結びつきました。

②自閉症の障害特性に応じた支援

日中活動における環境設定や課題（一人で達成できるよう設定した軽作業）の提供については自閉症の障害特性に応じ、以下の構造化を取り入れました。

(1) 環境設定

・部屋をシンプルな環境に設定し、外的な刺激を可能な限り整理しました。

・同室のメンバーと動線がかさならないよう、机やパーティションの配置等工夫しました。

(2) ワークシステム（作業の順序や量を明示的にしていく手法）の導入

・カードによる上から下へのワークシステムを設定しました。

・Aさんの得意な色カードを使用し、ポケットマッチング方式で、2つの課題をこなしたら、報酬としてお茶をお渡しし、“終わり”を明確するように配慮しました。

報酬のお茶については、便秘に対する整腸対策も兼ねて実施しました。

(3) 強みを活かした課題

・ご本人の興味のある写真の分別。箱の穴にコインを入れる課題（プットイン）。色マッチングなどAさんの興味と視覚に訴える課題を提供しました。特定の課題にこだわることもあるため、課題が偏らないよう多数の課題を準備し、ローテーションして提供しました。

Aさんにとって、最も気になる部分や、苦手な部分を環境整備することで補い、強みを活かした課題を提供することで、活動に集中しやすい環境を心がけて整備しました。

③AD/HDの特性に応じた支援

AD/HDの子供達に対して、アメリカでは、パラレルティーチングという教育モデルが展開されています。パラレルティーチングとはAD/HDやLD（学習障害）を示す子供達にとって、自分をコントロールすることや社会行動を習得することが不可欠という考え方より、教えることと、行動管理の融合を目指す行動理念として紹介されています。Aさんへの支援を考える中で、パラレルティーチングで展開されている取り組みが有効と考え、参考として取り組んでみました。

紹介されているパラレルティーチングの具体的な方法は以下の通りです。

(1) 環境の構造化（シンプルで整理された環境設定・不必要な情報の整理）

(2) 注意・関心を引き付けるカリキュラム（興味のある課題と報酬の提供）

(3) 明確な指示・賞賛・行動修正の介入（視覚的な指示・タイミングのよい賞賛による強化・行動修正）

(4) グループワークへの発展（社会活動へつなげる）

この紹介された内容と方法については、それまで取り組んでいた自閉症の方へのアプローチにもリンクする内容も多く、応用として非常に参考になる内容でありました。そこで、Aさんの取り組みにつなげてみました。以下の通りです。

(1) 環境の構造化

・自閉症の特性の取り組みでも紹介しましたが、できるだけシンプルで刺激の少ない環境を設定しました。

・Aさんにとって、興味のある物・気になる物を全てAさんの活動機の周辺のケースや引き出しに整理し、わざわざ立ち歩くことなく、いつでも手の届く範囲に、Aさんの望む物が取れるように設定しました。それでも、Aさんの欲しい物が活動室（日中活動の作業室）に無い場合は、折り合いをつけて、Aさんと一緒に同じ建物内の生活エリアの自室まで行き、目的の物を取ってすぐに活動室へ戻り、納得したうえで、次の活動に移れるようにしました。

・Aさんにとって人の動きは非常に気になる事象のひとつです。そこで、活動室内では入口付近の人の動きが見える位置で、なおかつ側面を壁に囲まれて刺激の少ない位置に活動機を設定し、座る向きも考えました。

・イスを前後にガタガタ揺る行動が多く、それをきっかけに、落ち着きがなくなってくるが多かったので、フローリングの床にあえてコンパネ（合板）を貼り、すべりやすいことでイスを前後にゆすることのない（ゆすれない）環境に設定しました。これにより、イスを前後にガタガタ揺ること、そ

れをきっかけとした行動は、無くなりました。

(2) 注意・関心を引き付けるカリキュラム

・自閉症の特性でも紹介しましたが、Aさんの興味関心を活かした課題を提供しました。

・ワークシステムの課題の終わりを明確にする意味で、お茶を提供しました。これについては整腸作用にもつながっています。また、半日の終わりには、頑張った報酬として、Aさんの好まれる飴をお渡しし、活動への強化を図りました。

(3) 明確な指示・賞賛・行動への介入

・ワークシステムの導入など、視覚に訴えた明確な指示の出し方を心がけました。その際、Aさんの得意なことや、興味のある“色”“数字”“まわる物”をキーワードとした提示方法や課題提供を心掛けました。

・活動後の報酬としてのお茶や飴など、次の活動意欲に少しでもつながる強化子（強化につながるツール）となるよう提供するタイミングを考えました。

・集中が切れて、徘徊に移行しそうなタイミングを見計らっての介入として、Aさんの好む歌を歌ったり、好きそうな広告等をお見せすることで、再び、活動に注意を向けたり、せめて作業室に留まっていたかのような介入を実施しました。一見、単なる対処療法に思えがちですが、AD/HDという障害特性を考慮すると、逆に介入により注意の向きを変えることにもつながることが立証されました。ただし、その際、他の利用者との兼ね合いもありますが、Aさんに対しての支援者の立ち位置も考慮して取り組みました。

(4) グループワークへの発展

・Aさんの安定度が増したタイミングで、昼休みの散歩活動や、萩の杜の利用者の出来上がった洗濯物をコンテナに積み込み、各フロアまでコンテナを押しつけて届けるという活動につなげました。

歩くことは、もともと大好きな方なので、スムーズに活動出来ました。洗濯のコンテナについては、かごは運ばないものの、コンテナを押すという作業には取り組み、今では、お一人でコンテナをエレベーターに積み込み、2階まで操作して、コンテナをおろしていらっやいます。

・課題終了後の賞賛や報酬の提供など、意図的にグループの他のメンバーも巻き込みグループ内でのメンバー間の不安を払拭し、和やかな雰囲気をつくり、安心感を持たせました。

グループのメンバーが全て、人を頼りにされている(特定の人が身近にかかっていると安心する)方ばかりでしたので、逆にグループメンバー間でお互いの存在を頼りになるような雰囲気作りを意図的に心掛けました。

以上が実施しました取り組みです。AD/HDの方の示す過活動性を認めつつ、「シンプルな環境設定」「視覚的な指示」「ご本人の望まれるインパクトの強い賞賛・報酬を提供する」ことで、プラスの活動を強化することを意識して取り組みました。

これにより、Aさんの活動への集中が増したうえに、活動の幅も大きく広がることにつながりました。

以上、自閉症にAD/HDを伴っている事例に対し、3つの取り組みを紹介しました。自閉症の方への基本的アプローチとAD/HDの障害特性に応じた取り組みをミックス

させた取り組みとして実施したものです。実際うまく支援できなかった場面も多々ありましたが、根気強くPLAN→DO→SEEを繰り返した結果、一定の成果があがったのではないかと考えています。

この結果には、Aさんにかかわる、生活支援グループの担当職員、ご家族、医療、散歩の場面でかかわった全ての職員等、多くの方がAさんを理解し、対応を統一して取り組んだ結果であり、チームとして取り組んだ結果だと思っています。

4 まとめ

問題行動について、まず、大切なのは、その行動に対して「困った」ではなく「何故?」という視点をもつことです。最も困っているのは、ご本人であり、問題行動の原因はご本人の障害と周囲の環境との不適応が原因であり、場合によっては支援者が問題行動を引き起こしている場合が多々あるからです。

次に問題行動の「何が問題なのか?」という視点も大切です。周囲への影響や安全等を考慮し、何が問題なのか?整理して対応する必要があります。支援者が小さなことにこだわって、ことを大きくしてしまっていることもあるからです。

3つ目は、行動の原因を探ることです。上記でも紹介したように、行動の前後に起こっている事象を客観的に記述し、原因と思われる事象の仮説をたてるのが大切です。

4つ目は仮説をたてた原因に対して、対応方法を計画し、チームとして取り組むことが大切です。ご本人をとりまく環境はどうか?障害特性は?コミュニケーションスキルは?生育歴・対応歴は?それを十分に理解して、対応方法を十分に計画し、それをPLAN→DO→SEEとして繰り返すこと。これが大切です。

5つ目は問題行動が整理される中で、ご本人の「苦手」と「強み」をアセスメントすることが必要です。「苦手」なことには十分支援をいれ、「強み」を活かして対応や活動のキーとすること。そして、自発的に出来たことには、認めることで、自己肯定感をもつていただくことが大切です。

最後に、問題行動への対応として、医療関係者と連携することも大切です。まず医療ありきではなく、福祉分野における基本的対応を実施する中で、それでも改善できない行動に対して、医療と連携することで、ターゲットの絞られた効果のある医療との連携が可能になると思っています。

以上を繰り返し丁寧に実施すること。これが、問題行動の軽減と行動改善につながるのではないのでしょうか。

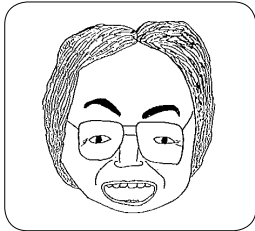
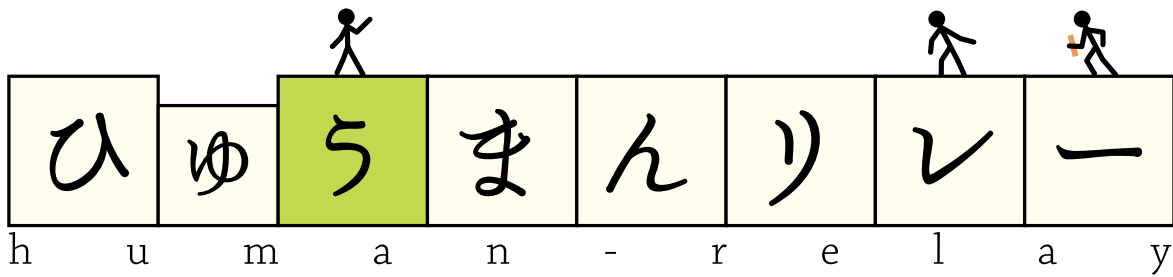
問題行動を呈している利用者をはじめ、支援している利用者の皆さんの毎日が主体的で、有意義なものであるように…。そして、利用者の今後の可能性が大きく広がることにつながるよう、今後も創意工夫し、支援をしていきたいと思っています。

以上

(注) アメリカ精神医学界の『精神障害の診断と統計マニュアル』の第4版(D SM-IV)では、自閉症と診断されると、重ねてAD/HDと診断されることはありません。しかし『多軸診断』として、別々の診断が出ることによって、個々の障害に応じた適切なサービスが受けられるということで、重ねて診断を出している医師もおられます。ちなみにAさんについても、自閉症とAD/HDの合併と診断されています。

参考文献

- ・リンダ・J・フィフナー氏
『こうすればうまくいくADHDをもつ子の学校生活』 中央法規
- ・志賀利一氏
『発達障害児・者の問題行動～その理解と対応マニュアル～』
エンバワメント研究所



※YKさんが描かれた
高山さんの似顔絵です

神奈川県横浜市 社会福祉法人同愛会 理事長 高山 和彦さんより

知的障害者の老いを想う

老いる。全ての人に等しく到来する天からの贈り物です。人が永遠に生きなければならない、と考ただけで恐ろしい気がします。しかし、世間では高齢化社会への不安感が必要以上に煽られているのではないかと思います。死自体の不安であるよりも、満足な死を迎えることのできない不安かと思えます。が、高齢化社会に知的障害者も包み込まれている、当たり前のように思い至る人はさきわめて少数です。当然、知的障害の人たちも高齢化しています。ところが、知的障害者の高齢化対策は、特別養護老人ホーム入居で決着がつくとのが多数派です。人生の最後にノーマライゼーションはないだろう、が率直な実感です。

現在、認知症という診断名を受けた方3名がグループホームに暮らしています。昨夏亡くなった知子さんは激しい譫妄状態のなかで、排泄物を捏ねまわす、不眠が続くといった日々が続きました。半年ほど経ってホームの責任者が癌の手術をするピンチに陥りました。このままの事態が続くと職員も共倒れになると悩んでいた最中、人工透析で通っていた病院から老人保健施設での受け入れを斡旋する知らせを頂きました。侃々諤々の論議の末、週末をホームで過ごし、週5日を施設利用するという苦渋の結論を選択しました。

老人保健施設を訪ね、彼女が知的障害者であることを話し始めたところ、院長がお見えになって「そのような話は聞いていないのでお引取りください」、門前払いを受けて帰ってきました。帰宅1週間後、不整脈の検査入院をしたその夜、心不全で亡くなりました。その間、知子さんを受け入れてもらえる高齢福祉施設を探しましたが、知的障害で統合失調症を合併し人工透析のための通院をしなければならない人を迎えてくれるところがありませんでした。

知子さんは10数年前、精神病院を退院してホームに入居しました。当初は寡黙で、誰にも心を開きませんでした。亡くなった両親の墓探しに最北の地を職員と尋ね

てから、少しずつ気持ちを語るようになりました。一昨年から人工透析をするようになり、週3回の通院をしていた病院が透析中の彼女の対応を嫌って老人保健施設を紹介したのです。親切心からではなく、本心は厄介払いだったのです。どうも、知的障害というラベリングをされていることによって行き場がないようでした。

考えてみれば、社会的入院であったとはいえ身寄りがなく統合失調症、彼女を受け入れる知的障害者福祉施設もありませんでした。知的障害に関わる福祉施設は駆け込み寺であれ、という気構えがだんだん消えていく寂しさを昨今感じています。地域での暮らしが成り立つのも、いざ!というときの入所施設利用の可否にかかることがあります。半年前、ホーム利用者が放火をしました。竹林3坪と焼肉屋の一部が焦げましたが、どういうわけか事件化されていなかったため、警察署に「自首」したところ強い叱責だけですみました。が、近隣の謝罪回りでは、本体施設で再教育することが条件でした。

話が飛びましたが、知子さんの葬儀を空とぶくじら社でおこないました。ホームで暮らす仲間や仕事を共にした仲間で見送ることにしました。父、母を見送った後、一人残った「私」の棺を共に生きた仲間が担いでくれる安心が、地域で暮らすための絶対必要条件です。障害者自立支援法には福祉サービスを商品化する考えがあっても、一人ひとりの人生を時系列に沿って援助する思想がありません。私たちの法人理念は「人生(存在)への支援援助」です。少し大げさですが、この理念を実現する現場を持続することの困難に直面しながら日々を営んでいます。誰もが「野の花のように生きられる」のです。そのための「ツール」が社会福祉法人です。

次は、喧騒なシティタウンでも寂しいカントリータウンでもない暖かな自然堂でほんとうの障害福祉を實踐し、変えている、理論家でもある滋賀県障害児協会常務理事、湖南ホームタウン施設長乗光秀明さんに繋がります。

発達障害の人たちと職場をつなぐ就労支援プロジェクト 「ジョブジョイントおおさか」の取り組み ～部局横断型の支援モデル～

大阪府発達障がい者支援センター

アクトおおさか
就労支援担当 高橋 亜希子



ジョブサイトよど
就労支援担当 佐々木 祐介



【はじめに】

ジョブジョイントおおさか（通称・JJ）が発足してから約1年半が経過しました。

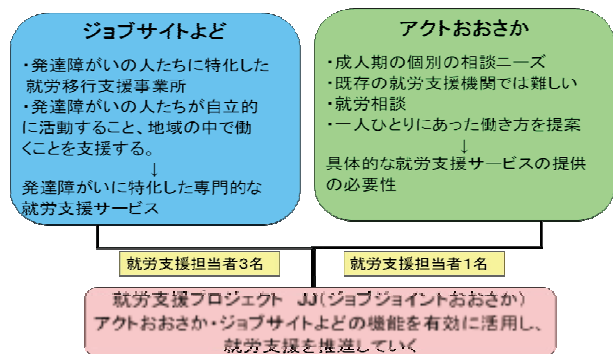
この間、試行錯誤を繰り返しながらの取り組みも、少しずつ形になってきました。

そもそも、このプロジェクトが始まったのは、「ジョブサイトよど」の開設準備を「アクトおおさか」と協力して進めていたことがきっかけでした。

その頃、アクトおおさかでは発達障害の方からの個別的就労ニーズにどのように対応していくかが課題となっていました。

また、ジョブサイトよどの方針として「発達障害のある人が地域で働くことを支援する」ことを掲げていたため、この共通する課題をそれぞれの機能を活用して解決できないか検討が始まりました。

そして、平成18年10月に「アクトおおさか」と「ジョブサイトよど」の部署を横断して連携し、発達障害のある人たちへの就労支援を実施するという目的で「ジョブジョイントおおさか」のプロジェクトが始まりました。



【取り組みの経過】

JJが本格的に始動するにあたって最初に行ったことは、事業計画を立てることでした。

まず、就職者や実習者、職場開拓企業の数値目標を設定し、どのようなことに重点を置いてプロジェクトの仕組みを構築していくかについて検討を重ねました。

それでは、初年度からの取り組みの経過について、

簡単にご説明していきたいと思います。

（平成18年度）

初年度は、これまで個別的就労支援の経験やノウハウのない中、とにかく「やってみて、振り返る」という手探りの状況で支援を開始することになりました。

そのような状況で、次の2点を重点課題として取り組みました。

1) プロジェクトの基盤となる支援体制と支援の流れの構築

現場担当者2名という体制のため、アクトおおさか、ジョブサイトよどで就労を希望されている方の中から対象者を絞って支援を実施することになりました。

そして、就労支援機関への見学や、研修・関係機関の会議にも積極的に参加して情報収集を行い、ジョブコーチの方法論をモデルとして、JJでの支援モデルを構築していきました。

2) 支援対象者のアセスメント

支援を実施するにあたって、対象となる人をよく知らないと適切な支援ができません。そのため、まずはジョブサイトよどの作業場を活用して、個別のアセスメントを行いました。

そこで見えてきたことは、仕事の経験が少ないため働くイメージが持てなかったり、小さい頃から失敗経験の繰り返しで自信を持つことができないといった対象者の現状でした。

一人ひとりの生活面を含めたニーズをトータルで把握して個別支援計画を立案することや、就労準備のステップの中で自分に自信が持てる体験ができる仕組みが必要でした。

（平成19年度）

前年度の実践から見えてきた課題の中で、特に次の2点について重点的に取り組みました。

1) アセスメント・就労相談のパッケージ化

前年度に実施したアセスメントを基に、作業活動

を通じての評価と個別相談を5回のパッケージ（約1ヵ月半の間に、週1回ペースで実施）に整理しました。

実際の作業場面と相談のワークシートを活用し「自分自身の障害特性」「得意なこと・苦手なこと」「自分にとって必要な配慮や支援」を自己分析と支援者からの評価をもとに整理し、自分自身の「プロフィール」という形にまとめました。このプロフィールは、現在もハローワークや会社の面接などで活用しています。

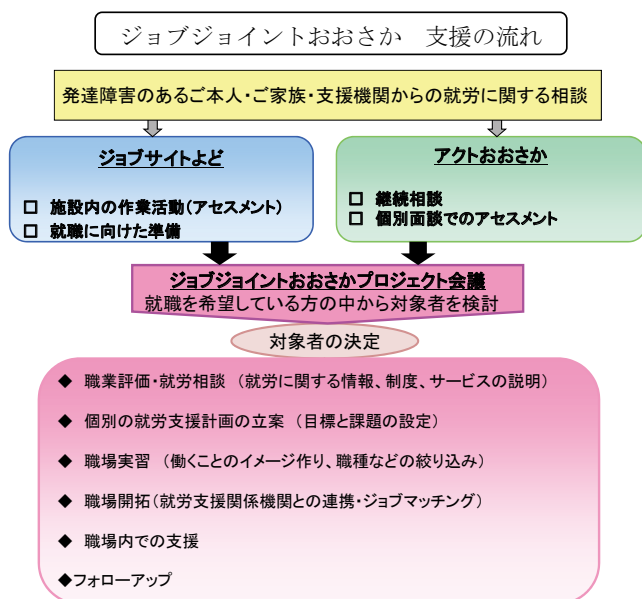
2) 職場実習の実施

ご本人さんが「働くとはどういうことか」のイメージを持つこと、また「自分に合った働き方」を理解することは大切なことです。

そこで、就労相談により対象者が自己理解を深めていくのと同時に働く目的や自分に合った仕事内容、職場環境を理解していくために、実際の会社で職場実習を行いました。

職場実習を実施したことにより、ご本人さんが適職のイメージを持つことができただけでなく、ご本人さんが職場で働いている様子からアセスメントすることや、対人社会性のスキルをOJTで伝えることができました。

また、実習の受け入れ事業所には、発達障害について理解を深めてもらう良い機会になりました。



そして、今年度は新規対象者が11名、前年度からの継続支援の対象者7名の方に支援を実施しています。新たな対象者のアセスメントから、求職活動の支援、フォローアップ支援と様々な状況の方に対して支援サービスを提供しています。

(支援実績)

	支援対象者	職場実習の実施件数	職場実習の実施事業所数	就職者
平成18年度 (10月～3月)	11名	2件	2事業所	1件
平成19年度	13名	14件 (実人数10名)	8事業所	7件
平成20年度 ※7月1日現在	18名	5件 (実人数4名)	5事業所	1件

【今後の課題】

アクトおおさかでは、成人期の発達障害の人たちの就労支援ニーズが年々増え続けています。反面、就職を目指した支援には時間がかかることもわかってきました。「就職したい」と希望する発達障害の人が相談に来られて、すぐに就労支援へとつながるケースは稀です。

たくさんの方のニーズに応えていく仕組み作りと共に、じっくりと時間をかけて支援をする必要がある方もいるといった難しい現状があります。

また、ジョブサイトよども就労移行支援事業が2年目を迎えることから、就労移行に向けてのより具体的な取り組みが求められています。

そのような状況で、今年度からJJの支援スタッフが2名増えました。しかし、スタッフが増えただけでは課題を解決することはできません。スタッフの支援技術の向上と関係機関とより一層の連携を進めていくことが大切です。

また、各部署と支援のノウハウを共有し、役割分担をしながら支援サービスを提供する仕組み作りも続けていく必要があります。

さらに、今後は就職した方のフォローアップも課題になってくると考えられます。継続して働き続けることをどのように支えていくか、その仕組みも考えていく必要があります。

業務貢献表彰は、通常の業務水準をこえての貢献があったとされることがらについて、年度ごとに法人内で公募し、すぐれた案件について表彰するものです。19年度は3件のテーマが表彰対象となりました。今号ではそのうちの1件をご紹介しますが、残り2件も次号、次々号にて内容を紹介してまいります。

今回の表彰のポイントについては、次のとおりです。

『発達障害の人たちと職場をつなぐ就労支援プロジェクト「ジョブジョイントおおさか」の取り組み』
表彰のポイント

部署をこえたプロジェクトとして部署間の互いの長所が引き出される形で連携でき、実際に結果に結びついてきていることが評価され、また今後に大いに期待できるとしての表彰となりました。

自閉症療育センターLink (リンク) 開設のご報告



自閉症療育センターLink
センター長 谷岡 とし子

法人ではこれまで自閉症児とご家族に対して、2箇所療育事業を実施してまいりました。13年前に「TEACCH療育相談室」が大阪市内にでき、「大阪自閉症支援センター」と名称を変更、さらに療育部門を独立させて平成16年から「児童デイサービスセンターan(アン)」として、現在は大阪市淀川区十三で、法人の通所施設であるジョブサイトよどと同じ建物にて運営しております。もうひとつの事業所「自閉症療育センターwill(ウィル)」は高槻市野見町にあります。大阪府の委託を受けて、「アクトおおさか療育強化事業」としてスタートし、平成17年から現在の名称にて運営しております。

そしてこの5月に、大阪府の委託を受けまして、新事業所「自閉症療育センターLink」を枚方市に開設いたしました。これで当法人にて運営の、幼児から学齢児の療育を実施する事業所が3箇所になりました。それぞれ運営状況は若干異なりますが、自閉症児の家族をサポートする理念や形態・指導法は共通しております。3箇所のそれぞれの強みを生かし、今後は、療育児のサービスの枠を超えて地域に対しても啓発・発信ができるように、スタッフの資質向上に努めて参りたいと思っております。よろしくお願い致します。

自閉症療育センターLink (リンク) のご紹介!

所在地：枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3階

交通アクセス：京阪枚方市駅東出口 徒歩3分

定員：50名

対象児：3歳～小学校6年生までの自閉症およびスペルガー症候群等の診断を受けた児童およびご家族

療育期間：1年間。但し、5・6月は事前の発達検査を実施しますので、療育は7月から3月までの期間となります。

療育時間：10時～11時、13時～14時、15時～16時の3セッション

※20年度の療育対象者はすでに決定しております。ご了承ください。



マークはたんぼぼ!

【玄関・入り口】



【玄関・入り口】

療育室のご案内!



療育相談や IEP
ミーティングに
利用

【相談室—2 箇所】



ゲーム機とビデオのお部屋

余暇スペース



トランポリンとボールプール



リラックルーム
(キラキラ・ぶ
くぶく…!)



おやつエリア
でコミュニケーション
指導



ワークエリアで勉強



交代の練習

法人設立 10 周年記念事業

1998 年に設立された法人は今年で 10 周年となります。記念の年となる今年度、記念事業を複数計画しております。その概要についてお知らせをいたします。 (総務部)

1. 講演会

○講演会 I

題：『地域に生きる』(仮)

法人が本拠をおく高槻市において、強度行動障害・重症心身障害の方など、重度の障害のある方々がいかにして地域に生きていけるのか。われわれはどのような支援をしていくべきなのかについて、当法人での実践報告を発表させていただくと同時に、メインコメンテーターに長野県での地域生活支援を先進的に実践してこられた福岡寿氏(予定)を迎え、考えていく機会としていきます。

日時：2008 年 10 月 9 日(木)

午前および午後

会場：高槻市立生涯学習センター

多目的ホール(予定)

○講演会 II

題：『生涯にわたる一貫した支援

～成人期・移行支援のあり方を考える～』(仮)

自閉症・発達障害者の方々の成長の過程において、途切れがちな支援を、今後われわれは、どのようにつなげていくべきなのか。どのようにしていけるのかについて、考えていきたいと思えます。大阪府内での先進的取り組みについても紹介していく予定です。

日時：2008 年 10 月 29 日(水)

午前および午後

会場：高槻現代劇場 中ホール(予定)

上記二つの講演会につきましては、詳細が決定次第ホームページ等でお知らせをいたします。

2. 法人紹介ビデオの作製

法人を紹介するビデオを作製します。設立以来、法人全体を紹介する映像や出版物がありませんでした。10 周年を機会に、これまでの歩み、現在の活動、今後の法人の取り組みなどについて、総合的に紹介するビデオの作製を予定しています。

3. 研究紀要の発行

法人の事業所での活動の中で得られた知見を中心にまとめた研究紀要を今年度中に発行する予定にしています。頒布も予定しております。頒布に関する情報はホームページ等でお知らせいたします。

4. 機関誌総集編(記念誌)の発行

法人設立から現在までの 10 年の間に発行された機関誌は今号までにすでに 34 号を数えるに至ります。また、法人の前身である「杉の子会」が結成されてより法人設立までの 5 年間についても、さまざまな情報を誌面にて発信していました。法人はいかにして成り立ち、日々あゆみ、現在にいたるのか。それを誌面をとおして見ていく形で編纂を行います。今年度中に発刊予定です。頒布に関する情報はホームページ等でお知らせいたします。

以上 4 つの事業については、法人全体での取り組みをすでに開始しております。「もの」として残るもの、また、皆様にいっしょにご参加いただけるものもありますが、法人では部署間で協力して計画を進めていく計画・準備段階での過程も大切に考えながら、本年度、記念事業を行っていきます。発刊物を手にいただいたり、講演会にご参加いただいたりと、法人職員総出による事業に、ぜひとも何らかのかたちで皆様方にも関わりを賜れば幸いです。

各情報につきましては、上記のとおり法人ホームページ (<http://suginokokai.com>) 等でもお知らせいたします。特に講演会については、本誌次号発行は講演会と同月の 10 月となりますので、本誌上にてお知らせするとしても間際となる予定です。ぜひともホームページ等にてチェックいただき、ご参加いただきますようお願い申し上げます。

お知らせ

■高槻市事業（つきのき学園・かしのき園）継承の統合施設を来春開設いたします

高槻市立として運営されてきた「高槻市立つきのき学園」（知的障害者通所更正施設）「高槻市立かしのき園」（肢体不自由者通所訓練施設）の2施設を統合し、民間事業として市立養護学校跡地に新施設を建設する計画が昨年度、市より出されました。年度内の設置・経営法人の公募を経て、当該事業を当法人にて継承運営していくことが決定いたしました。

今年度末には建物も完成する予定で、自立支援法における障害者福祉サービスの自立訓練（生活訓練）事業・生活介護事業・就労継続支援事業B型・就労移行支援事業・短期入所事業・日中一時支援事業・相談支援事業の7つの事業を行う多機能型の施設として運営していくことになります。これまで知的障害者の方への支援を中心としていた法人にとって、医療的ケアを必要とする重複障害（身体・知的）のある方々への支援は、新しい取り組みになります。来春の移管にむけて、年度途中には経験あるスタッフを中心に準備室を立ち上げて、4月以降の体制にむけて、また現在両園を利用されている方々の支援の引継ぎにもかかり、より円滑な移管をしていく所存です。

地域における期待と責任がますます重くなりますが、まずは利用者・ご家族・地域の方々、その他関係の方々に安心して開設の日を迎えていただけるよう、ひとつひとつ着実にすすめていきたいと思います。新しい施設につきましても、既施設と同様に、ご支援、ご理解たまわりますようお願い申し上げます。



統合施設完成予想図

■平成19年度厚生労働省プロジェクト報告書をお配りいたします

平成19年度実施の厚生労働省プロジェクト2件について、終了報告書が刷り上がっています。報告書は無料ですが、郵送料をご負担いただいております。ご希望の方は、必要分の切手を貼り付けたあて先記入のA4サイズ返信用封筒をお送りください。

また、いずれのプロジェクト分をご希望か、明記をお願いいたします。

○プロジェクト1『自閉症・発達障害者のスキル&モチベーションを高めるOJT／Off-JTおよび管理方法の開発』⇒「PJ1（OJT／Off-JT）報告書」と明記ください。

○プロジェクト2『自閉症・発達障害者の特性を活かした高付加価値職域・事業の開発に関する研究』⇒「PJ2（高付加価値職域開発）報告書」と明記ください。

切手については、次のとおり貼り付けをお願いいたします。

200円／1冊 390円／2冊

（プロジェクト1報告書／37ページ）

240円／1冊 390円／2冊

（プロジェクト2報告書／47ページ）

（プロジェクト1,2の報告書を1冊ずつの場合には390円分）

その他はお問い合わせください。

封筒送付先：〒569-0071

大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402

社会福祉法人北摂杉の子会

H19プロジェクト報告書係 あて

お問い合わせ：072-662-8133

「厚生労働省プロジェクト報告書配布係」まで

■萩の杜作業場を新設します

萩の杜では、夜間支援を中心とする施設入所支援とともに、日中には生活介護事業を行って参りましたが、おもに日中の生活介護事業における作業場として、敷地内に新しく2階建ての建物を建設することになりました。秋には着工し、来年4月からの利用開始で計画しております。現在萩の杜で生活中の方々はもちろんのこと、ご自宅から通われる方についても日中の過ごす場所としてご利用いただけるようになります。緑豊かなロケーションを生かして、街中の施設とはまた違った活動ができればとの思いで計画をすすめております。

これまで萩の杜では「職住分離」として、日中の活動の場を市街地のジョブサイトひむろ内におき、毎朝出勤・夕方には帰宅するという生活をしてきましたが、より多様なニーズを受けて、さまざまなプログラム、サービスが提供できるよう、特に自然環境にすぐれた萩の杜内にも日中活動スペースを開設することにいたしました次第です。

さらに、これまで萩の杜の施設内で行って参りましたショートステイ（短期入所・日中一時支援）につきましても、新しい建物内に専用の日中活動スペースを設け、よりゆったりとした環境の中、お過ごしいただけるようになります。

建物新設にて、より充実した利用者支援を提供できることになろうかと思っております。今後ともますますのご理解、ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。



作業場完成予想図

<おわびと訂正>

前号11ページ「表彰式」の記事にて、業務貢献表彰の対象者「高木一矢」を誤って「高木一也」としておりました。ここにお詫びして訂正申し上げます。

掲 示 板 コ ー ナ ー

(平成 20 年 3 月から平成 20 年 5 月まで)

法人本部 総務部 掲示板

- | | | | |
|-------|---|----------|--|
| 3月 1日 | 平成 21 年度採用 法人説明会
会場 ジョブサイトよど | 研修 | 平成 19 年度業務貢献表彰
平成 20 年度 事業方針
理事長 中村節史
平成 20 年度 各部年度方針
各部長・施設長 |
| 3日 | 経営会議 | | |
| 8日 | 平成 21 年度採用 法人説明会
会場 ジョブサイトよど | | |
| 22日 | 平成 21 年度新卒採用筆記試験 | 交流会 | |
| 23日 | 第 49 回理事会・第 26 回評議員会
会場 高槻市立生涯学習センター
3 階 第 2 会議室 | 22日 運営会議 | 21 年春職員採用の経過と各部職員体制について
法人全体研修計画について
法人設立 10 周年記念事業について
19 年度事業報告作成スケジュールについて
J J 関連の体制について |
| | 決議事項 第 1 号議案 新規事業の件
第 2 号議案 諸規則、規程改正の件
第 3 号議案 平成 20 年度
事業計画 (案) の件
第 4 号議案 平成 20 年度
予算 (案) の件 | 28日 | 将来構想検討委員会 ケアホーム建設について
(チーム SS) |
| 24日 | 平成 21 年度新卒採用面接試験 | 5月 12日 | 経営会議 |
| 25日 | 運営会議
平成 20 年度法人研修について
法人設立 10 周年記念事について
厚生労働省プロジェクトについて
20 年、21 年 採用職員の研修について
各部年間スケジュールについて | 20日 | 法人・施設 監事監査 会場 法人本部
監事 川浪スエ子、吉田信吾 |
| 4月 9日 | 将来構想検討委員会 座長会
ケアホーム建設について
授産事業の強化について
余暇支援について | 23日 | 運営会議
5月 25 日開催の第 50 回理事会・第 27 回評議員会について
法人設立 10 周年記念事業について
残業の取り扱いについて |
| 14日 | 経営会議 | 25日 | 第 50 回理事会・第 27 回評議員会
会場 高槻市立現代劇場
決議事項 第 1 号議案 平成 19 年度事業報告の件
第 2 号議案 平成 19 年度決算の件
第 3 号議案 規則・規程の一部改訂の件 |
| 19日 | 法人全体研修
会場 社会福祉法人 聖ヨハネ学園
地域生活支援センター 光 3 階
多目的ホール | 29日 | 将来構想検討委員会 チーム SS (ケアホーム建設について) |

(安原 記)

萩の杜 掲示板

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---|
| 3月 4日 | オーラルヘルスケア | 22日 | 余暇委員会 |
| 5日 | 精神科相談 | 23日 | 精神科相談 |
| 6日 | マニュアル検討委員会 | 24日 | 旅行委員会 |
| 7日 | 日帰り旅行 (フルーツフラワーパーク) | 28日 | 個別支援計画懇談会 (～5月 16 日) |
| 10日 | 課長主任会議 | 5月 1日 | マニュアル検討委員会 |
| 11日 | オーラルヘルスケア | 7日 | 課長主任会議 |
| 12日 | 旅行委員会 | 8日 | 利用者健康診断
ひむろ・萩の杜調整会議 |
| 17日 | 余暇委員会 | 12日 | 旅行委員会 |
| 18日 | オーラルヘルスケア | 13日 | 余暇委員会
オーラルヘルスケア |
| 19日 | 精神科相談
生活介護係会議 | 14日 | 精神科相談 |
| 20日 | 事例検討事務局会議 | 16日 | 生活介護係会議 |
| 21日 | 日帰り旅行 (海遊館) | 20日 | オーラルヘルスケア
危機管理委員会 |
| 24日 | 余暇委員会 | 22日 | 利用者健康診断 |
| 25日 | オーラルヘルスケア | 23日 | 課長主任会議 |
| 26日 | 精神科相談 | 26日 | 個別支援計画策定会議 (C グループ) |
| 4月 1日 | 課長主任会議
ひむろ・萩の杜調整会議 | 27日 | 余暇委員会
個別支援計画策定会議 (D グループ)
オーラルヘルスケア |
| 8日 | オーラルヘルスケア
余暇委員会 | 28日 | 精神科相談
個別支援計画策定会議 (B グループ) |
| 9日 | 精神科相談 | 30日 | 個別支援計画策定会議 (A グループ) |
| 11日 | 旅行委員会 | | |
| 14日 | マニュアル検討委員会 | | |
| 15日 | オーラルヘルスケア | | |
| 17日 | 生活介護係会議 | | |

(下 記)

ジョブサイトひむろ掲示板

- 3月 7日 高槻作業所交流会（現代劇場）
利用者6名、スタッフ2名が参加しました。
エアロビクスで取り組んでいる、「松ケンサンバ」と「お尻かじり虫」のダンスを発表しました。
ジョブサイトひむろ会議
- 11日 エアロビクス①グループ（ゆうあいセンター）
高槻・島本就労支援ネットワークに参加
（富田町公民館）
- 15日 宇治川福祉の苑見学2名
- 20日 祝日開所日 ジョブサイトひむろ利用者、萩の杜利用者が出勤されました。
- 25日 エアロビクス②グループ（ゆうあいセンター）
※3月見学者 1組2名
- 4月 1日 萩の杜との連携会議
- 4日 ジョブサイトひむろ会議
- 15日 ジョブサイトひむろ家族会総会
高槻・島本就労支援ネットワークに参加
（富田町公民館）
- 22日 サニースポット職員交流会・勉強会（サニースポット）
- 29日 祝日開所日 ジョブサイトひむろ利用者と萩の杜利用者が出勤しました。
- ゴールデンウィーク休暇 5月3日（土）～5月6日（火）
- 5月 9日 ジョブサイトひむろ会議
- 12日 エアロビクス①グループ（ゆうあいセンター）
- 13日 高槻・島本就労支援ネットワークに参加（富田町公民館）
- 14日 滋賀県男性合唱グループ「まほろば」さま、コーラスの慰問
ジョブサイトひむろ利用者が参加
唱歌やアニメの唄のコーラスや手遊び等を楽しみました。
- 20日 エアロビクス②グループ（ゆうあいセンター）
- 26日 ジョブライフサポーター事業説明会（ジョブサイトひむろ）
就労支援におけるジョブライフサポーター事業について説明を受ける。
- 27日 サニースポット交流会・勉強会（サニースポット）
※5月見学者 2組3名
（平野 記）

自閉症支援部掲示板

- 大阪自閉症支援センター
保護者研修（入門講座・実践講座）各月1回実施
和泉市教育委員会巡回相談（小学校 1回、中学校 1回 計2回）
泉大津市教育委員会巡回相談（小学校 計1回）
高槻市教育委員会巡回相談（小学校 2回、幼稚園3回 計5回）
摂津市教育委員会巡回相談（小学校 計2回）
豊能町教育委員会巡回相談（小学校 計1回）
研修会・講演会への講師派遣（大阪府障がい者自立相談支援センター、大阪府衛生会健康の里、枚方市教育委員会、箕面市教育委員会、高槻市教育委員会、高槻市特別支援教育研究会、大阪重症心身障害児を守る会等）
- アクトおおさか
- 3月 5日 東大阪市教育委員会アクトおおさか巡回相談
実践報告会スーパーバイズ
- 9日 JDD ネット大阪第4回懇談会出席
- 21日 厚生労働省発達障害施策検討委員会第6回企画・編集連絡会出席
- 26日 富田林養護学校実践報告会スーパーバイズ
- 27日 大阪府教育委員会第2回発達障害のある生徒支援連絡会議出席
- 28日 第6回大阪府発達障害者支援体制整備検討委員会
- 4月 30日 職員研修「青年・成人期高機能広汎性発達障害の理解と支援①」実施
- 5月 1日 発達障害者支援センター全国連絡協議会役員会出席
- 5月9日～11日 国立秩父学園発達障害者支援センター職員研修基礎講座2名参加
- 14日 職員研修「青年・成人期高機能広汎性発達障害の理解と支援②」実施
- 28日 職員研修「青年・成人期高機能広汎性発達障害の理解と支援③」実施
- 29日 大阪府発達障害団体ネットワーク20年度第1回ネットワーク会事務局担当
（新澤 記）
- 児童デイサービスセンター an
- 3月 7日 保護者研修実践
- 14日 保護者研修応用
- 24日 平成19年度療育終了
- 25～28日 平成20年度療育児発達検査
- 4月 3日 an 新任者研修
- 9日 療育開始
- 25日～5月2日 個別指導計画面談（新規療育児）
- 5月 11日 保護者研修入門
- 19日 保護者研修実践
- 25日 保護者研修フォローアップ
- 自閉症療育センター will
- 3月 4日 平成20年度療育説明会
- 5日 保護者指導 実践グループ
- 7～19日 平成20年度療育児募集期間
- 25日 平成20年度療育児決定者通知発送
- 28日～5月21日 新規療育児発達検査
- 4月 1日 保護者指導実践グループお知らせ発送
- 14日 平成20年度 決定者説明会
- 5月20・23日 児童デイ契約の締結
- 自閉症療育センター Link
- 3月 1日 平成20年度療育説明会
- 3～19日 平成20年度 新規療育募集
- 25日 平成20年度療育児決定者通知発送
- 4月16・17日 説明会・見学会
- 21日～30日 発達検査と面談
- 5月1～30日 新規療育児発達検査と面談
（谷岡 記）

ジョブサイトよど掲示板

- 3月 6日 利用説明会
- 11日 業務会議
- 17日 施設見学会
給食会議
支援員会議
- 18日 職員勉強会（ひまわり）
厚生労働省PJ会議
- 30日 見学（淀川区コミュニティスクール）
- 4月 1日 新利用者利用開始
- 14日 給食会議

21日 支援員会議
 22日 JJ会議
 28日 見学(衆議院議員福島豊先生)
 見学(フレンズ)
 支援員会議
 5月 7日 OT会議

12日 支援員会議
 19日 給食会議
 21日 職員研修会
 22日 見学(山陰経済経営研究所)
 26日 施設見学会
 支援員会議

(佐々木寛 記)

萩の杜家族会掲示板

3月 2日 新・旧役員会：新役員候補と現役員による新年度からの家族会の運営についての議論。定例会の開催頻度、バザーの運営方法、物品販売等の資金集め等について。
 12日 ホットトーク開催：保護者9名出席。松上統括施設長、ひむろ平野施設長出席の下、ひむろでの日中活動、新事業体系移行等について。
 28日 定例会：新年度の役員の役割分担、総会(4/27予定)準備としての活動報告案、活動計画案等について。施設より新年度体制の説明。正職員中心とした1グループ3人の援助員体制とする。薬手帳配布：薬の誤投薬防止の一環として配布。
 4月 27日 総会：中村理事長、松上統括施設長出席。今村相談役による司会で開催。昨年度報告、新年度役員、活動計画、予算計画等の承認。

5月 20日 危機管理委員会：下課長、保護者3名出席
 * 前回の危機管理委員会(1/29)以後の事故報告
 * 薬手帳の活用状況
 * 施設内現場点検、危険と思われる2箇所の改善を要望。
 * 利用者が伝染性の強い病気に罹患したとき、施設内でその病気が流行のきざしを見せたとき等についての対応方法確認。
 * 安全・安心が基本の施設であるにもかかわらず、利用者の事故がつづいていることが保護者としての最大の悩みになっている。長期的な対策とすぐに手をうつべき対策に分けて検討したが、今後とも危機管理委員会のみの問題でなく、施設・家族会の総力をあげて取り組むべき課題と考えている。
 (植松 記)

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

3月 26日 役員会(新旧引継ぎ) 杉の子会本部
 会長豊澤 副会長福本、三宅、事務方副島、山田 会計川合 会計監査西田
 旧役員 西原、森 出席
 次回予定として
 4月4日役員会、懇親会 4月15日総会実施を決定
 4月 4日 役員会 杉の子会本部
 会長豊澤 副会長福本、三宅、事務方副島、山田 会計川合 会計監査西田
 主として今後の会運営の方法及び会長の方針について報告
 総会は4月15日高槻現代劇場206号室決定
 会議後新旧役員の懇親会を実施 京都ホテル
 15日 総会実施 高槻現代劇場206号室
 新役員8名 旧役員5名 一般会員35名
 委任状7名 欠席8名 来賓3名
 17日 各施設家族会会長の連絡会として「がんこの会」開催 法人本部 豊澤出席
 * 法人設立10周年の進め方
 * 将来構想委員会20年度取り組みの座長報告
 * 法人21年度職員採用状況について
 18日 将来構想委員会・ケアホーム委員会開催 豊澤出席
 28日 将来構想委員会・ケアホーム委員会開催 豊澤出席
 以降この会をSS会と改称する
 土地の件
 ソフト面
 今後の検討課題
 その他
 次回5月29日

5月 14日 滋賀男性合唱団による慰問演奏会実施
 利用者と合唱団の予想を上回る反応に今後の定期化も視野に入れて検討
 役員会より豊澤、福本、三宅、川合、西田出席
 21日 がんこの会開催 豊澤出席
 23日 役員会開催 川合氏所用のため欠席 他全員出席
 25日 杉の子会第50回理事会・第27回評議員会開催 豊澤出席
 * 平成19年度事業報告
 * 平成19年度決算
 * 規則・規定の一部変更
 * 平成20年度事業予定
 29日 SS会開催 豊澤出席
 萩の杜・ひむろ合同によるケアホーム実態状況報告会の開催を求める
 「庵ケアホーム」見学後に実施する
 6月25日見学決定

以降の計画

6月 5日 折コングループレクリエーション
 10日 選択グルーブレクリエーション
 16日 陶芸グルーブレクリエーション
 16日 ジョブサイトよど コロケ試食会
 18日 就労支援の取り組み説明会
 20日 療育グルーブレクリエーション
 24日 がんこの会
 25日 「庵ケアホーム」見学会
 26日 そうぞうグルーブレクリエーション
 7月 16日 萩の杜・ひむろ合同ケアホーム研究会
 (豊澤 記)

北摂杉の子会後援会掲示板

<行事>

◎第8回(2008年度)定例役員会を開催
 (議事録抜粋)
 日 時) 2008年5月11日(土) 15:00~16:00
 場 所) 法人本部会議室
 出席者) 後援会:役員全員(8名)が出席(4名は委任状)

相談役:全員(7名)が出席
 監査役:出席(1名)

1. 2007年度の活動

1) 会員数
 個人会員; 589名、団体会員; 15団体、
 合計; 604名/団体

- 2) 後援会費及び寄付
後援会費；125万円、寄付；103万円、合計；228万円
- 3) 経緯
・法人への寄付
2007年5月に230万円を寄付(萩の杜空調設備修理費の一部として使用)
・セキスイハイム住宅紹介制度で1件成約
・個人、団体会員に会費納入をお願い

2. 2007年度の収支と会計監査報告

- 1) 収入
前期繰越金：2,304,822円、寄付金：525,010円、後援会費：1,252,000円、受取利息：2,309円、セキスイハイム成約紹介料：500,000円、収入合計：4,584,151円(今年度の収入：2,279,329円)
- 2) 支出
事務費：2,450円、通信費：8,840円、雑費：13,895円、法人への寄付：2,300,000円、支出合計：2,325,185円
- 3) 次期繰越金
2,258,966円(2008年3月31日現在)

上記について会計から報告され、監査役が適正に運用されていることを確認した

3. 2008年度の活動計画

- 1) 法人への寄付
寄付の用途について中村理事長から説明があり、異議なく了承された

(220万円：法人設立10周年記念行事の①法人紹介ビデオの作成、②杉の子会以来の機関誌のまとめ書籍、③記念講演会開催の費用に充当)

- 2) 後援会員の整理と資金計画
・退会希望者などがあつたため、個人及び団体会員の整理を行った
今年度の会員数は、個人会員：538、団体会員：15、合計：553名/団体
・資金計画→後援会費、寄付、その他で203万円の収入を目標にする
- 3) 住宅紹介制度(セキスイハイム)
今年度も継続する(住宅を建てる際にこの制度を利用すると、成約者：建物本体価格の3%割引、後援会に50万円、紹介者に10万円が支払われます：連絡先は後援会事務局)

<近況報告>

- ・3月末
個人会員：589名、団体会員：15団体
合計：604名/団体 寄付：3件
- ・4月末
個人会員：539名、団体会員：15団体
合計：554名/団体(退会者あり) 寄付：3件
- ・5月末
個人会員：540名、団体会員：16団体
合計：556名/団体 寄付：6件
- ・5月12日 法人への寄付を実施

(棚山 記)

ジョブサイトよど家族会掲示板

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 3月 3日 | 大阪府発達障害団体ネットワーク運営委員会で、100円喫茶実施。
家族会役員会開催。100円喫茶実施。 | 21日 | オアシスサロンで、100円喫茶実施。
家族会総会開催。会員21人。松上常務理事、佐々木施設長出席。
100円喫茶実施。 |
| 5日 | 自閉症療育センターwill保護者会で、100円喫茶実施。 | 24日 | オアシス講演会の後援お礼に大阪府庁訪問。家族会会長同行する。 |
| 6日 | オアシス役員会で、100円喫茶実施。
淀川区民生委員長、福岡様宅訪問。川端、福田。 | 5月 8日 | オアシス総会で、100円喫茶実施。 |
| 13日 | 十三市(神津神社内)参加。
オアシスサロンで、100円喫茶実施。
3月家族会定例会開催。会員27人。佐々木施設長出席。
アクトおおさか新澤伸子先生をお招きして、「TEACCHを通して、問題行動について」勉強した。 | 11日 | 北摂杉の子会后援会総会 会長参加。 |
| 23日 | 北摂杉の子会理事、評議委員会 河端、福田参加。 | 12日 | 家族会役員会開催。100円喫茶実施。 |
| 26日 | 家族会役員懇親会開催。 | 13日 | 十三市(神津神社内)参加。 |
| 30日 | オアシス主催の佐々木正美先生の講演会で、書籍販売実施。 | 19日 | 大阪市立心身障害者リハビリテーションセンター、大阪市発達障害センターへ、オアシス会長と家族会会長訪問。 |
| 4月 7日 | 家族会役員会開催。100円喫茶実施。 | 25日 | 北摂杉の子会理事、評議委員会 河端、福田参加。 |
| 13日 | 十三市(神津神社内)参加。 | 26日 | オアシスサロンで、100円喫茶実施。 |
| | | 29日 | 大阪府発達障害団体ネットワーク総会、役員5名参加。
将来構想委員会就労部 JSよど見学、検討する。会長参加。 |

(福田 記)

大阪自閉症支援センターを発展させる会 オアシス掲示板

- | | | | |
|--------|---------------------------------------|-----|---------------------------------------|
| 3月 2日 | 就労体験開催(オアシス会員児対象) | 19日 | 大阪市立心身障害者リハビリテーションセンター訪問(相談役、会長) |
| 3日 | 大阪府発達障がい団体ネットワーク運営委員会(19年度副会長出席) | 19日 | 大阪市発達障害者支援センター エルムおおさか訪問(相談役、会長) |
| 6日 | 3月度オアシス役員会 | 22日 | 5月度役員会および全委員会(長居障害者スポーツセンター会議室にて開催) |
| 9日 | 就労体験開催(オアシス会員児対象) | 26日 | オアシス・サロン開催 |
| 13日 | オアシス・サロン開催 | 25日 | 北摂杉の子会理事、評議委員会参加(相談役2名) |
| 30日 | オアシス講演会「自閉症スペクトラムへの理解と実践」開催 | 26日 | 研修委員会会議(会長、副会長、研修委員長、広報委員長) |
| 4月 12日 | 4月度オアシス役員会 | 29日 | 大阪府発達障がい団体ネットワーク会・総会(会長、副会長、オアシス会員出席) |
| 14日 | 広報委員会編集会議 | | (芝 記) |
| 21日 | オアシス・サロン開催 | | |
| 24日 | 大阪府庁訪問(19年度 前会長・会長・副会長) | | |
| 5月 8日 | 平成20年度オアシス総会開催 | | |
| 12日 | ホットメールなわ講演会(20年度 相談役、会長、副会長、オアシス会員参加) | | |

□法人へのご寄付に感謝いたします (2008年4月1日～6月16日)

田泌尿器科クリニック 上野嶺子 合田裕章 宮本東雨 カラオケ喫茶&スナック MIE 田中美枝子 足立頼彦 秋山 進 長岡 功 山本正一 福田啓子 社会福祉法人北摂杉の子会後援会 深尾政子

□後援会入会と会費納入に感謝いたします。(2008年2月23日～5月27日)

下川都志子 甲斐田美智子 中井淑子 真野利之 緩結政子 平尾欣子 向井満子 中野芳栄 安原二三子 井上美代子 清水悦子 軽込 昇 野口頼子 三田智子 庄田幹雄 平原悦子 榎本貴夫 セキスイハイム近畿 平瀬武明 山田千明 若松産業(有) 大平久子 森谷弘雅 森谷薫美 森谷奈津美 棚山薫晴 棚山 妙 松岡洋市 山尾郁保 山尾朝子 山尾 崇 山尾壮志 今井温子 野口健司 田子森幸子 加藤 浩 豊澤 進 副島雄彦 西田源太郎 森 泰雄 森 洋見 森 芳春 太田 実 太田典子 西原清二 西原律子 西原圭一 西原香織 西原尚史 東 敬司

□後援会へのご寄付に感謝いたします。(2008年2月23日～5月27日)

田口敦夫 棚山薫晴 矢橋知美 森谷弘雅 松岡洋市 橋川靖子 ボランティアグループかたつむり

□家族会へのご寄付に感謝いたします。(2008年4月1日～6月30日)

ほかほか弁当茨木園田店 森田豊子

□物品のご提供に感謝いたします。(2008年4月1日～6月30日)

不二園芸 前田富士江 成田敬子 梶原明子 福原きよ子 木村輝子


□ボランティアに感謝いたします。(2008年4月1日～6月30日)

ほかほか弁当茨木園田店 松木咏子

(敬称略 順不同)

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座までお願いいたします。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

		記	
◇	1. 寄付金		円
◇	2. 個人会員	年間一口	2,000円
◇	3. 団体会員	年間一口	10,000円
◇	 郵便振込口座 北摂杉の子会		
	00920-8-90859		

□ 社会福祉法人 北摂杉の子会 法人本部事務所
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402
TEL (072) 662-8133 FAX (072) 662-8155
[E-Mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com

□ 知的障害者生活施設 萩の杜
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] haginomori@suginokokai.com

□ ショートステイセンター ふれす
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072) 699-0099 FAX (072) 699-0130
[E-Mail] breath@suginokokai.com

□ ケアホーム とんだ
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室

□ ケアホーム みやた
〒569-1142 高槻市富田町3-4-1 105号室

■ 高槻市障害者地域移行支援センター da・かーぼ
〒569-1141 高槻市氷室町3-20-10
TEL (072) 690-5221 FAX (072) 690-5227
[E-Mail] da-capo@suginokokai.com

□ ジョブサイトひむろ (就労移行支援・生活介護事業)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL & FAX (072) 697-2234
[E-Mail] himuro@suginokokai.com

■ 生活支援センター あんだんて
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072) 697-2233 FAX (072) 697-2234
[E-Mail] andante@suginokokai.com

■ 大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか
〒532-0023 大阪市淀川区十三東3丁目18-12
イトウビル1F
TEL (06) 6100-3003 FAX (06) 6100-3004
[E-Mail] act-osaka@suginokokai.com

□ 自閉症療育センター will
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072) 662-0100 FAX (072) 662-0056
[E-Mail] will@suginokokai.com

□ 自閉症療育センター Link
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3階
TEL (072) 841-2411 FAX (072) 841-2412
[E-Mail] link@suginokokai.com

□ ジョブサイトよど (就労移行支援・生活介護事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-7007 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] yodo@suginokokai.com

□ 大阪自閉症支援センター
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp

□ 児童デイサービスセンター an
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06) 6838-8990 FAX (06) 6838-7015
[E-Mail] an@suginokokai.com [URL] http://oasc.jp

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人北摂杉の子会 理事長 中村節史
発行日 2008年7月10日

発行所 北摂杉の子会 住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
定価 100円